

2015年7月2日

地域の皆様へ

損保 OB・OG の防災を考える有志の会(仮称) 児島 正  
元安田火災海上保険(株)[:現損保ジャパン日本興亜]  
兵庫本部総務課長

## 阪神・淡路大震災で、そして新宿で何を学んだか

大きな地震が起きるとは夢にも考えていなかった私が、阪神・淡路大震災に遭遇した損保 OB & 一個人としての思いと08年4月から新宿でその教訓を語り継ぎたいとの活動から学んだことをまとめました。

まず、みずからのいのちを守ることです。公助でさえ自助が大前提です。いくら高邁な使命感を持つ行政の職員でも死傷すれば何もできません。共助も、自分や家族が死傷したら、人を助けるどころではなくなります。

しかしながら、日々生活に仕事に追われる中で、いつ起きるかわからない地震に備えることは一番大切なことですが、一番難しいことです。

日々できることを積み重ねて、諸課題を頭の片隅に置いておけば、いざ事が起きた時、臨機応変な対応が可能となります。地震が他人事であった私は、頭が真白になりました。大きな大災害では、一瞬の判断の差が生死を分けます。

未曾有の災害が予想される首都直下地震では、行政も、消防も、警察も、同時に被災するため、当座は全く期待できません。地域の一人ひとりが、みずからのいのちはみずから守る意識を高めていくことが、地域全体の防災力を高めます。そして、お互いさまで困ったときは助け合う、地域の顔の見える関係づくりが、個々の生き残る確率を高めます。神戸は全国のみなさまの暖かいご支援により、立ち上がることができました。地域内外の学校・医療関係者・大学・事業者・NPO などとの、顔の見える関係づくりも大切なことです。

自分だけが生き残っても、街がなければ、日々の生活も仕事も商売もできません。地域のみんで生き残る確率を高めることです。形あるものはたとえ壊れても、夢と希望さえ失わなければ、街は蘇ると信じております。

### 1. 家財の地震保険に加入せず。(みずからの財産はみずから守る)

- ◆ 関西では地震はないとのことで、損保職員としての不明を恥じる。
- ◆ 生活再建のためには、地震保険加入による自己資金手当てが不可欠。
- ◆ 地震保険だけでは、家の再建が不可能なのも事実。当座の現金があれば、生活再建のスピードが違う。東日本大震災、1兆 2 千億円を超える支払いで、被災地の生活再建と経済復興を支援。地震保険制度は、官民協働の被災者救済の仕組み。

### 2. 寝室は、背の高い家具とガラス製品を置かない。

- ◆ 寝ているところに、洋服ダンスが倒れてベッドで止まる。布団では、大怪我の可能性大。ベッドの方が安全性大。

- ◆ 同じ社宅で、観音開きのドアが開いて倒れ、畳にドアが突き刺さる。
- ◆ 家具の固定が面倒でも、寝ている時に家具が倒れてくる危険性を考えて、寝床及び家具のレイアウトを考える努力くらいはできるはず。

### 3. 真っ暗闇の中、身動き不可。隣室の子供部屋に行けず焦るのみ

- ◆ 真っ暗闇で、床に家具類が散乱。しかも、ガラス破片が飛び散る。動くことも、物を探すことも、不可能。
- ◆ 枕元にスリッパ・懐中電灯・財布・めがね・携帯ラジオは、不可欠。
- ◆ 火が出なかったのが幸い。午前6時過ぎると、朝食で石油ストーブ・ガスを使用しており、危なかった。家族とともに、炎に包まれている可能性大。

### 4. 電気がないと文明開化の時代にタイムスリップ

- ◆ 個人でできることは、灯りを確保するための懐中電灯・情報を得るための携帯ラジオ・通信手段確保のための充電器(乾電池・ソーラー・手回充電など)・調理するためのカセットボンベの用意。予備の乾電池のストックも大事。
- ◆ 停電が長時間続けば、ライフライン(水道・下水道・ガス・通信)と鉄道などの公共交通機関も全面的にストップする。
- ◆ 高層マンションのEVもストップし、高齢者なども階段で歩くしかない。信号もストップし交通網は大混乱。病院も治療行為ができなくなる。

### 5. 水など、水道をひねれば、出るものと思っていた。

- ◆ 最低限の水は、確保すべき。4～5日は、冷蔵庫に残っていた水で、洗顔も、手も洗えず、食器も洗えず、貴重な飲み水として、分け合う。
- ◆ 家族を疎開させ、会社に泊り込みするとき、残った水で、洗顔・歯磨き・体を拭いて、やっと一息。1日一人、3リットルが必要。保存期限が切れた水も、生活用水としての利用が可能。
- ◆ 当日妻が、風呂の水を溜めて置けば、トイレを流す水として、利用できたと悔やむ。水がなければ、新聞紙で用を足し、ビニール袋に包んで処理する以外ない。

### 6. 防災は男性目線中心になる傾向

- ◆ 女性の生活者の視点が不可欠(家事・育児・両親の介護など)。乳幼児・病人・高齢者を抱えていれば、各々のニーズに応じた非常用の備蓄が不可欠。乳幼児は、ミルク・紙オムツ・離乳食が、要。女性用品も不可欠。
- ◆ 女性の尊厳を守る気配りも(セクハラ・バイオレンス・トイレ・着替え・洗濯物・プライバシーなど)

### 7. 家の倒壊

- ◆ ご家族の中で、家の倒壊による下敷きで、1階に住んでいたご両親が、亡くなる。芦屋・東灘区・灘区は、古い瓦葺き屋根の重い建物が多く、瓦礫の山と化した。
- ◆ 耐震工事が経済的な面からできないのであれば1階には寝ないとか、避難路となるところには家具などの物を置かないとかお金をかけなくてもできることはある。
- ◆ 向う3軒両隣と挨拶。たまの手土産も効果的。木造の家であれば、バール・のこぎり・ジャッキ

があれば救出が可能。古い木造住宅が密集している地域ではお互い様で隣近所が助け合う顔の見える関係づくりが大切。

## 8. 西宮家族寮住民、全員無事（鉄筋コンクリート5階建20世帯の社宅）

- ◆ 鉄筋コンクリートの新しい建物であることが幸い。敷地内には、2メートル近い断層が走り、給排水管は亀裂。室内は、洋服ダンス・和ダンス・本箱・冷蔵庫・テレビ・立っているものすべてが、凶器となって襲う。
- ◆ 棚の上の置き時計・飾り物が落下し、ガラスの破片が飛散。ピアノは暴走し、壁やガラス戸を突き破る。一瞬にして、空間と足場を失う凄惨な修羅場と化す。
- ◆ 西宮の独身寮生は寮の消火栓で近所の消火活動。8割近い人が、家族・隣近所同士で、救助。淡路島では、日頃の付き合いの違いか、初日で、行方不明者ゼロ。
- ◆ 首都直下地震では、はるかに多くの人々が倒壊建物の下敷き、生き埋め。消防も、警察も人の子、非番の休日、遠距離通勤、事務所・自宅の被災、家族の面倒、平時のような活動は、無理。膨大な数の救助現場に行くのは、不可能。

## 9. 負傷者対応について

- ◆ 最大で15万人弱。重傷者は緊急の手術ができなければ死亡。長田区の市立西市民病院は、5階部分が崩壊。病棟に患者と看護婦が閉じこめられた上、多数の軽傷の患者が押しかけて大混乱。病院の機能をみんなで守る仕組み作りが焦眉の急。
- ◆ 「大騒ぎする元気があるケガ人は放置しても大丈夫。黙っている人ほど心配で一刻も早い治療が必要」というのが素人でも簡単にできるトリアージ方法。
- ◆ 以下は、新宿の医療関係者の方々の話を聞いて個人の責任でまとめたものである。
  - \* 災害時新宿区の災害医療体制では診療所は閉鎖して、医師は区内10箇所の医療救護所か病院で活動する。
  - \* 一番大事なことはケガをしないことである。大きな地震で多数負傷者が発生すれば医療者がどんなに頑張っても被災地で平時のような満足な治療は困難。
  - \* 病院には、軽症者は来ないでほしい。重傷者・中等症者が優先。
  - \* みずからと家族のいのちを守り、地域でお互いが助け合えるように平時から応急手当の方法を学んでほしい。
  - \* 災害時には、医療救護所では受付・整理・情報連絡・応急手当・搬送・運送・炊き出しなど医療者でなくともできることがたくさんある。地域の方々の協力が不可欠。
  - \* 日頃常用の薬や薬手帳はいつでも持ち出せるように用意してほしい。
  - \* 日中には、昼間区民（働く人・学生・生徒・買い物客・観光客など）の方々がいる。昼間区民の方々は、新宿区地域防災計画の対象外で、負傷しても治療するところは決まっていない。
  - \* 地域住民も昼間区民も、災害時の多数負傷者が発生した場合の地域の諸課題を共有して、お互いの強みを生かして、医療者と協力してひとりでも多くの救えるいのちを救うゆるやかな横糸を紡ぐ共助のネットワーク作りに努力してほしい。
  - \* 3・11と同じく道路が大渋滞すれば、地域住民の方々の避難の支障になる上に昼間区民も市街地火災などの不測の事態に巻き込まれ、また重症者は災害医療の前提である被災地外への搬送が機能麻痺して、救えるいのちを救えなくなる懸念がある。地域住民・昼間区民

との顔の見える関係づくりを医療関係者としても希望している。

## 10. 地震火災の怖さ

- ◆ 家屋の倒壊に加え、火が出れば、より多くのいのちも家屋財産もことごとく灰燼に帰す。8万人の焼死者が出た関東大震災と、一昼夜燃えつづけた須磨・長田の阪神大震災で、経験済み。
- ◆ 長田区の菅原市場。見渡す限りの焼け野原。赤くただれた黒焦げの、内部まで焼き尽くされたコンクリート建物。迫る猛火に、建物の下敷きで身動きできない家族を置き去りに。土までも、背後で叫ぶ家族の声で、哀しみの恨みの色に染まっていた。
- ◆ 地震火災による死者4,700人は、過去の大火の死者による経験則からの推定値。道路が塞がり、避難も消防ポンプ車の出動もできないことは想定外。
- ◆ 元神戸市消防局の野村勝氏の「大きな地震の時には、行政はあてにするなど元消防がいうのだからこれほど確かなことはない」との話は、被災地の消防だから言えること。家族の生死も不明な中で、15分間で59件もの、神戸消防の消火能力をはるかに超える地震火災との壮絶な戦いは、涙なしには聞けなかった。

## 11. 関東大震災の悲劇を繰り返さないために一人ひとりができることを

- ◆ 小さな火災であれば、消防でなくてもバケツで水をかけるとか消火器で消すことができる。天井まで火が届くと危険だから、家から避難するしかない。
- ◆ 関東大震災の神田の和泉町と佐久間町では、真っ先にお年寄りと女の人と幼児などを安全な場所に避難させて、神田川の水をバケツリレーで、延べ30数時間も休みもとらずに住民百十数名が協力して火と戦い街を守った。
- ◆ 1・17の時も、神戸市長田区真野地区でも、地域住民と地元で働いている人の自衛消防隊が協力して、火が燃え広がるのを防ぐ。地震火災に備えて、地域に住んでいる人、働いている人も、学んでいる人も一緒になって地域の力を生かすための平生の顔の見える関係づくりが大切である。
- ◆ 木造が密集している地域では火災が多発し、燃え広がるのも速い。バケツなどで消火している余裕はないかも知れない。地域の危険度に応じて、10分間だけ消火して逃げるとか避難の目安を地域で話し合っておくことも大事。
- ◆ 広域避難場所の避難は、あわててはダメ。家が火元となって火災にならないように、隣の家から火災をもらわないように準備してから避難する心構えが大切。
- ◆ ブレーカーを落とし、ガスの元栓も閉めて避難する。隣の家から火が燃え移る危険が高いところは、窓ガラスなどがある開口部。窓ガラスに雨戸があれば閉めて避難する。窓のカーテンとか、窓の近くにある燃えやすいものを窓から離す。
- ◆ 一人ひとりが少しでも火に気をつけて避難すれば、火が燃え広がるのを防ぎ、遅らせて避難する余裕ができる。
- ◆ 神戸では地震直後だけでなく、1月17日から1週間後も、無人の建物や室内から出火している。
- ◆ 想像を超える揺れが起こり、電気ストーブの上や回りに多量の物品が落下・散乱する状況。その衝撃や摩擦によってスイッチが動いたと考えられている。

- ◆ 電気ストーブの上や回りに多量の物品が落下・散乱する状況であり、「転倒 OFF スイッチ」がそれらに押されて、本来の機能を発揮することができなかつた模様。
- ◆ 電気の復旧に伴い、無人の居室などでヒーターが加熱され、付近の可燃物に着火し火災が発生する結果となった。
- ◆ 電気機器や電気装置の電源線や配線コードの被覆が破れ、電線内部の芯線の一部又は全部が切れると大電流が流れて発熱。付近の可燃物が発火することがある。
- ◆ 部屋に都市ガスが滞留しているのに気付かず、蛍光灯のスイッチを切つたため、漏れていたガスにスイッチの火花が引火して爆発出火した。ガスのおいがしているときは、火気の使用厳禁は当然であるが、電気のスイッチの入切もしない。
- ◆ 余震が続くので蠟燭の使用はできるだけ回避。利用する場合は、下敷きにガラスコップやお皿を用意。周りに可燃物を置かず、蠟燭から目を離さない。
- ◆ 隣近所に高齢者の単身世帯・災害時要援護者の世帯があれば、自分の家の火の始末が大丈夫であれば、みんなで火の始末の確認する顔の見える関係づくり。

## **12. 阪神大震災では、幸いに時間帯から、家族一緒**

- ◆ 日中であれば、父親は会社、母親は買い物、こどもは学校と、家族は、バラバラ。
- ◆ NTTは、緊急時には、通話制限。発信と受信の両方の規制で被災地内同士の通話は特に困難。県外の親戚等を連絡中継点にした安否確認・連絡の取り決め要。
- ◆ 首都直下地震でも、地震直後の音声通話はまず繋がらないことを覚悟すること。メールなどの方が繋がる可能性が高い。
- ◆ 171の伝言板システムも容量を超える事態を想定し、3・4日間は安否が確認できず帰宅できない最悪の事態も覚悟し、3・4日間後に落ち合う場所の確認と残された家族が生き残れるためにどうすればいいか小さなことから始める。

## **13. 震災による死亡者の 9 割以上は死亡推定時刻が当日 6 時まで**

- ◆ 当初は警察・消防・自衛隊などが早く動けば、救えるいのちがもっとあったのではないかと悲憤慷慨。90%以上が、即死状態であったと後から知った。
- ◆ 事が起きてから、行政・警察・消防・自衛隊の救援・救出を待っても、その前に死んでは手遅れとの冷徹な事実である。
- ◆ 事が起きる前に、建物の耐震化・家財の固定化など、一人ひとりができることから取り組まないと遅いというのが、震災による直接死5,500人のご無念の方々からのメッセージである。3・11の家族の安否が心配というのは生きている人の教訓。
- ◆ 語り部の方から、避難所へ避難するとき家の瓦礫の下からうめき声が聞こえたが、知らない人であり、知っていれば助ける努力をしたかも知れないとの話を聞いた。隣近所に日頃挨拶していないと助けてもらえないのかと思った。
- ◆ 災害時要支援要援護者を抱えて家に不安がある方は、特に良好な近隣関係の維持が大事。家具の固定も大きな家具だけでもやっておく。最初の15分間で90%が即死状態。民生委員がどんなに頑張っても15分間で駆け付けることはできない。

#### **14. 運命の午前5時46分。世の中が動く前**

- ◆ 阪神・淡路大震災は、倒壊による死者が約90%であるが、地震時の季節・時間帯・気象条件により、被害態様は大きく変化する。
- ◆ 時間帯が幸い。火気の使用が少なく、関東大震災時と比べ、風は穏やかで火災被害も少ない。冬の夕方、強い北風のと看、新宿で大きな地震が起きれば、遥かに上回る焼死者・焼失家屋が出る可能性が大。
- ◆ 阪神高速が倒壊。新幹線・JR・阪急・阪神の各鉄道の駅・軌道が崩壊、鉄橋が落下。車・鉄道の動き出す前であったことが幸い。もう15分後であれば、車の追突・落下、列車の脱線・暴走・落下で更なる大惨事を招く。
- ◆ 朝夕の通勤ラッシュ時、列車の脱線による市街地での暴走、車の衝突による引火等大惨事を引き起こす。数値化しにくいので想定外である。
- ◆ 行政任せではなく、一人ひとりが自分のいのちを守るために小さなことから始めて、みんなで行き組んでいる地域が、想定外の事態が起きても臨機応変に助け合い、みんなのいのちと街を守ったのが過去の大震災からの貴重なメッセージ。

#### **15. 地域の宝である子どもたちをみんなで守り、地域にゆるやかな横糸を紡ぐ。**

- ◆ 小学校は地域住民のための地域防災拠点(1時集合場所・避難所・医療救護所など)でかつ最大の使命は子どもたちを守ること。小学校に絞り込み、具体的に取組む。地域内外へ発信しながらゆるやかなネットワークを作る。
- ◆ 子どもたちを失えば、地域は前に進めなくなり、少子高齢化の時代を迎えて地域の未来がなくなるのは、3・11の小学校・幼稚園の悲劇の教訓。
- ◆ 地震火災が起きれば、私が先生でも学校だけで子どもたちを守る自信はない。国・都のマニュアルでも、学校と保護者や地域、自治体との連携がかかせないと記載。
- ◆ 子どもたちを守るといふことであれば、地域も国籍・様々な利害関係を超えて、みんなで取組む協働の輪が広がる。事業者も協力し易い。
- ◆ 子どもたちに地震火災の怖さと身の守り方を教えれば、保護者を通じて地域全体へ広がる。みんなで守ると保護者が理解すれば、防災に無関心なマンション住民の子育て世代と地域を繋ぐ懸け橋になる。
- ◆ 防災あかずきんちゃんの紙芝居を、1月17日に新宿戸塚第二小の3・4年生の防災参観授業で披露。子どもたちに地震火災の怖さと身の守り方が届く。人形劇団わにこ(静岡)さんの名前を表記すれば無料で使用可能で、セリフの変更は自由。

阪神・淡路大震災20周年にあたり、関東大震災で学童5000人がなくなった悲劇を繰り返さないとの願いから、中林一樹明治大学特任教授・NPO人形劇プロジェクト稲むらの火のご協力を得て、人形劇団わにこさんに制作いただきました。

この紙芝居をご活用いただいて、多文化の視点も入れて子どもたちを地域のみんで守る輪を広げたいと祈っています。お力添えいただければ幸いです。

子どもたちを守ることが、地域と自分たちのいのちを守り、地域の未来を守る道と確信しています。

以上